



川崎市での新規就農をお考えのみなさま

川崎市都市農業振興センター農業振興課 電話 044-860-2462

川崎市の農業の特長

市内農地面積は、529ha、農家数は1,049戸（2020年農林業センサス）と農地面積は小さいですが、市内農業者の7割以上が農産物の直売を行っており（2020年農林業センサス）、政令指定都市20都市の中で、本市は直売所・朝市の数が最も多く、各農業者が消費者に直接生産物を販売するなど、消費者や販売先が手の届く範囲に数多く存在しています。

消費者の顔を見ながら販売する直売に関心のある方、地産地消を実現したい方、新規就農の御相談お待ちしております！

本市農業者が考える本市農業の強み・弱み（一部の農業者の声）

【強み】

- ・ 軒先販売、スーパーマーケット、発送での直売を行っているが、全て自分で値付けを行っており、産地と比較してかなり優位な価格設定が可能なこと。
- ・ 消費者が間近にいるため、荷がなくて困ることはあるが、売り先に困ることはない。
- ・ イベントを実施するときに多様な職種や特技を持った周囲の消費者が集まり、助けてくれること。
- ・ 農産物のおいしさの最大の条件である「鮮度」を売りにできること。
- ・ 生産地と消費地が隣接していて、生産したものをすぐに消費することができる豊かさ
- ・ 鮮度
- ・ ほとんどの農業経営体が直売を行っているため、農業者間で商品をシェアすることで、多くの品目を多くの消費者に提供可能

【本市での営農に向いている人】

- ・ （各農業経営体の平均農地面積が限定的であるため）生産したものをどうやって販売するかを考えられる人

【弱み】

- ・ 物流（販売先に自分で納品しに行く必要があるため、販路を拡大するほど納品に時間がとられる）
- ・ 少量多品目の栽培形態に対応するための労働効率性
- ・ 農地の流動性が低く、農地集約が難しい